

2010年チリ地震地震被災建築物の調査計画書

2010年4月

日本建築学会 地震被災調査チーム

1. 活動の目的

2010年2月27日3時34分(現地時間)、チリのChillan(チジャン)の北西約95kmを震源とするM8.8(USGS)の地震が発生、同地域において810,000戸以上の建物等が倒壊あるいは損壊し、432人の死者を含む180万人以上の被災者が発生しています(3月27日現在)。本地震では、組積造(ブロック造)建築物や鉄筋コンクリート造建築物を中心に多数の建築物に甚大な被害が生じていると伝えられております。災害委員会としては、本地震に対しても、被害の中心となる建築物を対象としている構造委員会・鉄筋コンクリート構造運営委員会および壁式構造運営委員会の委員や、主としてコンクリート系構造の耐震性に関する研究者を中心に、現地の被害調査および日本の耐震技術の応用の可能性について調査を行うことを計画しております。本調査チームは、1)当該地域の構造形式の特徴と施工方法の調査を実施し建物の耐震性を把握する 2)適切な個別建物あるいは地域を限定して選択し、被害原因の抽出、被災度または被害率調査などを実施する 3)その際、大規模な地盤崩壊も生じているため、その影響を含めて被害の特徴を抽出する 4)一般的な鉄筋コンクリート造建物の耐震性能向上方法について検討する。

2. 調査予定項目

上記当初調査目的にしたがって、以下の項目について調査研究を行う

- (1) サンチアゴ市とコンセプション市および周辺被災地域の地震被害概要の把握
- (2) 被害地域で用いられる建築構造、構造詳細の把握
- (3) 個別建物あるいは特定地域における詳細な被害調査(被害原因の抽出、被災度または被害率調査など)
- (4) 上記結果のとりまとめと報告書の公開

3. 活動組織

団長：河野 進(京都大学)
団員：楠 浩一(横浜国立大学)
日比野 陽(東京工業大学)
谷 昌典(神戸大学)
松井智哉(豊橋技術科学大学)
金 裕錫(東京大学)

4. 活動期間および滞在先

活動は以下の日程で行う

- 4/27 Santiago 着, 市内の被災地調査, チリ大学・カトリカ大学訪問, Santiago 泊
- 4/28 Santiago 市の被災地調査, 午後 Santiago→Concepcion, Chillan 泊
- 4/29 Concepcion 市調査(被害の概要調査), Chillan 泊
- 4/30 Concepcion 市調査(被害の概要調査), 午後 Concepcion → Santiago, Santiago 泊
- 5/1 Santiago 市調査(個別地域, 個別建物の詳細調査), 夜 Santiago 発
- 5/3 成田着

5. チリにおける受け入れ機関および協力者

Prof. Fernando Yanez (University of Chile) 他